

てくてく 東海道 宿場探訪マップ



STEP 4 大磯宿 二宮町 小田原宿



19 小田原城蓮上院土塁
小田原北条氏時代の小田原城の櫓構遺構。低地に残るものは早川遺構とこの土塁だけで貴重な遺跡です。



7 江戸口見附と一里塚
大きな松の老木が、小田原宿の東の玄関口、江戸口見附跡です。



8 北条稲荷と蛙石
北条氏康の死去を老狐の祟りと考えた、その子氏政が社を建てて、その老狐を祀り、守護神として崇めました。また、神社の境内にある蛙に似た蛙石は、天正18年(1590年)の小田原城落城前夜、夜泣きしたと伝えられています。



6 篠曲輪跡(推定地)
天正18年(1590年)の小田原城攻防戦で一番戦いの激しかった場所です。



4 新田義貞の首塚
越前藤島で討死した新田義貞の首を、故郷に葬ろうとした家臣宇都宮泰藤がここで病で没した際、義貞の首をいっしょに埋葬したといわれています。

2 宝金剛寺
古義興言宗の近郷三十一ヶ寺の本山。かつて小田原北条氏の祈願所として、厚い信仰と保護を受けていました。

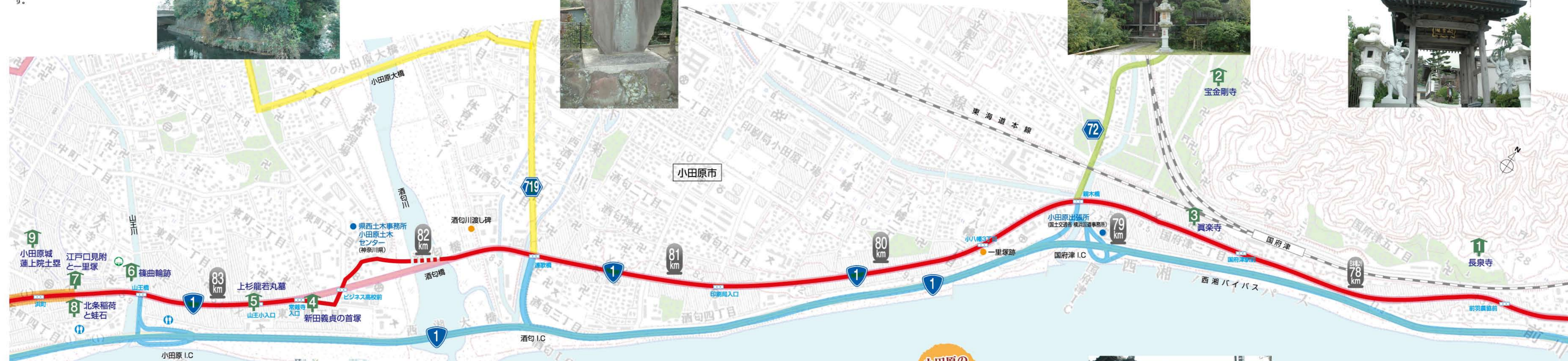


2 宝金剛寺



1 長泉寺

近代文学の先駆者、北村透谷が一時期、生活した寺です。親友の島崎藤村はここに透谷を訪ね、前川の海で遊んだことを小説「春」に書きました。



城下町としても
人を集めた、
神奈川県の
最大規模の宿。



小田原は江戸時代、大久保氏十一万三千石の城下町を兼ねた宿場として、箱根の山越え、関所を控えた宿場として大いに栄えています。そのスケールは東海道屈指で、本陣、本陣とも四軒、そして旅館屋は九十五軒を数えました。国の史跡に指定されている小田原城は、もちろん、当時の宿場の町並みを今に伝える板橋の旧道、小田原城攻めの時に豊臣秀吉が築いた石垣山一夜城など、貴重な史跡に今でも数多く出会えます。

小田原のイベント情報

- 板橋地蔵尊祭礼(旧東海道沿い/1月23-24日、8月23-24日)
「板橋のお地蔵さん」と親しまれている縁日で、多くの露店で開催されます。
- 小田原桜まつり(城址公園、城山公園ほか/3月下旬~4月上旬)
樹齢340年以上の長興山のしだれ桜など、小田原は桜の名所としても有名です。
- 北條五代祭り(城址公園と周辺/5月3日)
当時の姿を再現した武者隊、騎馬隊、鉄砲隊や音楽隊、まち衆隊など、総勢2000人にも及ぶパレードが勇壮に繰り歩きます。
- 一夜城まつり(石垣山一夜城歴史公園/10月中旬)
天正18年(1590年)豊臣秀吉が小田原攻めの際に開催したといわれる茶会にちなんだまつりです。
- 秋葉山火防祭(皇覚院/12月6日)
修験者袋束の山伏が天下泰平の祈願や山伏問答をした後、オキ火の上を渡る「火渡り」の儀式が行われ、無病息災を願います。

※開催日時等は都合により変わる場合もありますので、主催者または市へご確認ください。



3 親鸞上人が命名した寺。上人が石に指頭で名字を書かれたといわれる、2メートルほどの壽命石と呼ばれる石があります。

安全・安心な道路利用のために

横浜国道事務所では、現在の国道1号・15号(一部区間を除く)をはじめとした、神奈川県の主要な国道を管理し、皆さまの安全・安心な道路利用のために道路の維持・修繕などを行っています。

~法面等の除草及び街路樹の剪定~

雑草等の繁茂により建築限界内に障害が発生することを防止するとともに、通行車両からの視認性を確保するため、建築限界内の通行の安全確保ができない場合や運転者から歩行者や交通安全施設等の視認性が確保できない場合に、除草や剪定を実施しています。

緊急通報 #9910へ (無料)

道路緊急ダイヤル

道路の異状を見つけたらご一報ください

道路の異状を写真撮影して 道路の番号を照会

緊急通報

1. 警 察 高 速
2. その他の高速道路
3. それ以外の道路

道路の異状を写真撮影して(上記から道路の番号を照会してください)

道路の異状を写真撮影して(上記から道路の番号を照会してください)

1. 警 察 高 速
2. その他の高速道路
3. それ以外の道路

道路の異状を写真撮影して(上記から道路の番号を照会してください)

道路の異状を写真撮影して(上記から道路の番号を照会してください)

道路の異状を写真撮影して(上記から道路の番号を照会してください)

緊急通報以外の道路相談は道の相談室へ

「道の相談室」 ホームページアドレス
http://www.ktr.mlit.go.jp/honkyoku/road/michi/

●相談内容の回答については関係する機関から後日回答となる場合もありますのでご了承ください。

発行:国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所
〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町13-2 TEL.045-311-2981

慶長六年（一六〇一年）、徳川家康が東海道の宿駅伝馬制度を定め、街道の整備を始めてから四百年あまりもの歳月が流れました。

慶長九年（一六〇四年）には、江戸日本橋が五街道の起点となり、その後、五街道を中心に、里塚や並木などの施設が次々と整備され、東海道は日本を支える大動脈として、人・物・文化の交流に大きな役割を果たしてきました。さまざまな歴史を運んだ東海道、この道を歩き、踏みしめ、道が果たしてきた役割、これからの姿を見つめましょう。



現在の道を守っています

かつての東海道は、現在国道1号や15号として、人の移動や物流を支えています。横浜国道事務所ではこれら神奈川県内の主要な国道（神奈川県内の国道延長の約4割にあたる約258km）を管理しています。道路を安全で快適に使っていただくために、日々の点検やパトロールをはじめ、道路構造物の補修や修繕、清掃作業などを行っています。

宿場マップについて

東海道には53の宿場（神奈川県内では9宿）がありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在もその周辺には当時の名残をとどめる史跡や名所が数多く残っています。そこで、このマップでは道中の見どころや自然、行事などを広く網羅して、歩きながら東海道の「むかし」と「いま」が楽しめるように神奈川県内の9宿を5冊に分けて編集しています。

なお、表示していますルートは概ね旧東海道に沿ったウォーキングルートであり、実際の旧東海道とは異なる場合があります。

10 西長院
 「身代わり地藏尊」を安置するため1689年（元禄2年）に建立され、昭和の初めに国道の拡幅工事により現在地へ移転しました。この身代わり地藏尊、信仰する者の危難を身代わりとなって救うと言われ、身体には刀傷のような痕が残っています。（大磯町指定重要文化財）※平時は公開していません。



11 六所神社
 もとは石神台の地に置かれていましたが、大化改新後、現在地に移りました。その後、相模国府がこの地に移り、相模の六社の分霊が六所神社に祀られ、相模の総社となりました。



伊達時 彰徳碑
 明治維新以降、二宮の発展と社会福祉の増進に尽くした伊達時を記念して建てられました。彼の功績は二宮駅設置、大磯女子教養学舎の開設、平塚盲学校初代校長など多岐にわたります。



ガラスのうさぎ像
 二宮駅南口にガラスのうさぎを抱いて静かにたずむ乙女の像です。この像は、第二次世界大戦中、二宮の空襲で父を失った体験を綴った高木敏子さんの小説「ガラスのうさぎ」にちなんで建てられました。町民の平和への願いも込められています。

3 川勾神社



徳富蘇峰記念館
 蘇峰あての手紙が約4万6000通あります（閲覧可能）。また庭には樹齢300年を越す梅の老木が約90本あり、春には多くの花を咲かせます。
 開館日：月・水・金曜日
 ※梅の時期（2月）は土・日曜日も開館
 ※特別開館日 年末年始及び8月は第3-4週
 開館時間：10:00~16:00



8 川勾神社
 相模国二の宮として、源頼朝をはじめ多くの武将に崇敬されました。

4 一里塚の跡
 「江戸より十八里」の一里塚のあった箇所に、昭和57年、一里塚の跡の碑が築かれました。



5 松屋本陣跡
 大磯宿と小田原宿との間（あい）の宿にあった松屋本陣は、将軍や大名、旗本、門跡などの休憩所として利用されました。



二宮のイベント情報

- 川勾神社例大祭（二宮町内 / 10月第2日曜日）川勾神社の神輿を担ぎ町内をまわった後、夕刻に海岸で浜降りをを行います。
- 吾妻神社の縁結祭（吾妻神社 / 1月第3日曜日）たくさんの出店が立ち並び、良縁を願う人々が山頂の本殿までお参りします。

※開催日時等は都合により変わる場合もありますので、主催者または町へご確認ください。

二宮のイベント情報

大磯宿と小田原宿の距離が比較的長いことから知られた間の宿です。

江戸方面から進むと急な下り坂、押切坂を事前に控え、かこかきの人々が「こごかや馬を止め、ひと息入れた」といわれています。坂道には「江戸より十八里」と記された一里塚跡が残っています。



2 吾妻神社
 この神社は日本武尊の妻、弟媛媛命が夫の武運を祈り、海に身を投げ、その後、海辺に流れ着いた櫛を吾妻山山頂に埋めた場所だと伝えられています。また、役場横の階段を登った山の頂上には公園があり、相模湾を見下ろせて、眺めは格別です。



2 等覚院
 別名、藤巻寺と呼ばれ、薬師堂の前には町の天然記念物に指定されている古いフジの木があります。もとは吾妻神社の別当坊手院にあったと伝えられる梵鐘は町指定の重要文化財です。